書評

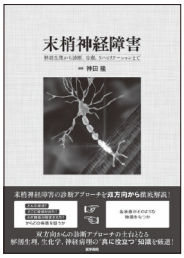
[評者]
三苫 博
東京医科大学副学長・医学科長/主任教授・医学教育学

末梢神経障害

解剖生理から診断，治療，リハビリテーションまで

神田 隆　編

●B5　頁 520　2022 年 10 月
定価：13,200 円（本体 12,000 円+税 10%）
[ISBN978-4-260-04939-9] 医学書院刊



神田隆先生（山口大神経・筋難病治療学講座特命教授）が編集された本書は，末梢神経障害を，病態生理学を踏まえて包括的に理解し，実践の診療の役に立てることができるという点で，この分野のマイルストーンとなる成書です．神田教授の構想に従い，全国のエキスパートの先生方が分担執筆されています．

末梢神経障害は，約 1,000 万人の患者がいると推定され，日常高頻度で遭遇する common disease の 1 つです．common disease といえば，典型的な症状，明解な検査所見から，診断が比較的しやすいというイメージがあるかと思います．しかしながら，末梢神経障害は，診断，治療のアプローチが大変に難しい疾患です．神田教授は，「末梢神経障害は，A があれば B の診断，そして治療 C の実施という一直線の思考では対処できないためである」と，その特徴を喝破しています．

一般に成書は，各疾患の特徴が羅列してあり，また，近年では分子レベル・遺伝子レベルの所見も詳細に記載しています．もちろん，各疾患の病因・症状・鑑別診断・治療・予後という多岐にわたる記載は重要であり，本書でも第Ⅲ編に 17 章にも分けて詳細な記載があります．一方，本書にはほかの成書とまったく異なる特徴的な点があります．第Ⅰ編に「末梢神経障害の基礎」として解剖学・神経生理学・生化学・免疫学を論じる章があり，末梢神経の病態を理解するために必要な基礎医学の概念が簡潔に整理されており，さらに，第Ⅱ編として「診断と治療総論」の章を設けていることです．この第Ⅱ編に末梢神経障害の症候学を解説しており，「末梢神経障害か否かの鑑別」，「障害の出現部位からどの疾患を疑うか」，「障害分布からどの疾患を疑うか」，「神経症候からどんなニューロパチーを疑うか」，そして，「合併する全身症状からどんなニューロパチーを疑うか」という問いを設定して，臨床推論の原理を明確に整理しています．また，この第Ⅱ編に記載されている検査の章では，「個々の検査の限界，利点」を考えて，検査結果を解釈する重要性を強調しています．この卓越した構成のために，読者は，第Ⅰ/Ⅱ編（基礎医学，症候学，検査・治療の総論）と第Ⅲ編（疾患各論）を行き来することができ，編者が強調する「双方向性の思考」を修得することが可能となります．

実践が強調される現在では，A ならば B という安直なハウツーものが多い時代です．そのような時代のなかでも，本書は上記のような骨太の哲学により，「真に役立つ成書」の意味を問い続けるものと思います．また，この精緻な構成は，編者の真摯な臨床への取り組みを思い出させます．編者は山口大脳神経内科教授時代には，ベッドサイドでの教育を重視され，「患者を徹底的に診るという古典的な神経学」を厳格に教育され，多くの学生，医師に多大な影響を与えてきました．神経学では，Charcot，Babinski，Holmes など名著・論文が知られており，後に続く学究の徒は先人の観察と思索に驚きと畏敬を感じながら学びを深めていきます．本書もそのレベルに匹敵する成書であることを確信しています．

最後に，安直物のあふれるなかで，このような真に医学，医療に貢献する本を企画，出版される医学書院の姿勢に，本邦の医学，医療に大きく貢献されてきた底力を感じました．

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2023

2026/09/17 09:39:31